

■蘆(野)東山 儒学者(朱子学派)。幽閉中に、中国の刑法を集成し、のちに世界的評価を受ける「無刑録」を著した。

あしとうざん

重秀勘定奉行1696＝ 陸奥国磐井郡東山洪民で、祖父の代から肝煎という家の次男に生まれる。

生来利発で、経済的に恵まれ、好んで草紙類を読みながら育ち、祖父の期待を受けて、

赤穂浪士討入1702＝ 6歳：曹洞宗奥の本山正法寺定山に入門、

団十郎刺殺・1704＝ 7歳：山鹿素行の門人の明石藩主家臣桃井素忠について漢方医・兵法を学び、  
御蔭参流行・1705＝ 9歳：

富士宝永噴火1707＝11歳：素忠に伴われて、今泉龍泉寺智光の教えなど受けるうち、  
外ヅ拘束・1708＝12歳：書物購入のため、母に連れられ仙台に出た際、碑文を読んでいるところを薬種問屋星久四郎に認められ、  
徳川綱吉没・1709＝13歳：  
・・・・・・1710＝14歳：仙台の久四郎宅に寄寓していた江戸の儒者吉田需軒の教えを受けるうち、その俊才ぶりが知られ、  
冥途の飛脚・1711＝15歳：推挙されて、藩儒田辺希賢に入門、藩生となり、帯刀御免後、帰郷。

絵島事件・・1714＝18歳：**\*士分に取り立てられ、仙台藩の儒員になり、藩主伊達吉村に御前講義をするに至る。**

徳川吉宗将軍1716＝20歳：選ばれて京都に遊学し、山崎闇齋門下の浅井義斎に師事、  
隅田川の桜・1717＝21歳：義斎が死去すると、崎門三傑の三宅尚斎の門生となり、  
御蔭参流行・1718＝22歳：高屋徹斎に国学を学ぶうち、  
・・・・・・1719＝23歳：祖父危篤の報で帰藩、まもなく祖父は死去、

小石川薬園・1721＝25歳：桃井素忠も死去。藩主の参勤交代に従って江戸に出、**天下の大儒室鴻巣に会い、盛んに質問して師を窮し  
させる一方、師から愛され、中国刑政の集成を懇請されて後に「無刑録」を著すことになる。**

・・・・・・1722＝26歳：仙台に戻り、帰郷。

火の見櫓制・1723＝27歳：結婚。

近松没・・1724＝28歳：母が死去。

・・・・・・1727＝31歳：姓を蘆と改める。実名徳林。

享保大飢饉・1732＝36歳：**学問精進上達を賞され加増。よく献督したが、剛直な性格のため、藩主に「七ヶ条の上言」をして厳しく諫  
めるなどしたため、重臣らから疎まれるようになり、**

・・・・・・1734＝38歳：娘が誕生。

昆陽蕃諸考・1735＝39歳：講堂設立の願書を提出し、

・・・・・・1736＝40歳：藩の学問所が建設されてその読書指南となるも、

・・・・・・1737＝41歳：娘サクが誕生。なお講堂建設・座列について願書を出し続け、

・・・・・・1738＝42歳：**\*ついに不屈き者として、加美郡の石母田長門のもとに幽閉される。外部との通信は禁じられるも、食事の  
世話を受けながら、給料は支払われ、家族の同居も認められるという優遇のなか、かつての師室鴻巣との約  
束を果たすべく、中国刑政の集成しつつ、自らの思想表明となる「無刑録」の著述編纂を始め、**

ツツ船出没始 1739＝43歳：娘が夭折。

・・・・・・1740＝44歳：男子が誕生するも、

・・・・・・1741＝45歳：

公事方御定書1742＝46歳：夭折。続いて婢が死去。

・・・・・・1743＝47歳：再び、娘が誕生。父が死去。

梅岩没・・1744＝48歳：この年、吉村が藩主を宗村に譲った際にも、'絶対に許してはならぬ'と言い置かれるほどで、

徳川吉宗隠居1745＝49歳：

義経千本桜・1747＝51歳：その娘も夭折。

・・・・・・1749＝53歳：もう一人の婢が死去。

この間、たびたび赦免願いを出すも、赦されず、

・・・・・・1750＝54歳：許可されて龍宝寺の蔵書を借用。

徳川吉宗没・1751＝55歳：石母田長門が死去。吉村が死去。前將軍徳川吉宗の死去で全国に恩赦のお触れが出て、赦されず、

・・・・・・1752＝56歳：体調を崩した妻がたびたび実家へ帰る。

山脇東洋解剖1754＝58歳：「二十二箇条の上言」をしたため、「百寿の図」を描く。

自然真営道・1755＝59歳：**\*刑は威嚇や見せしめではなく教導が重要という思想による「無刑録」(18巻)を完成。**

・・・・・・1756＝60歳：娘サクを嫁がせる。この年、藩主宗村が病死し、重村が襲封。

源内物産会・1757＝61歳：石母田家転居に伴い、高清水に移る。

大式政治批判1759＝63歳：

大岡忠光没・1760＝64歳：

・・・・・・1761＝65歳：**24年ぶりに、赦されて帰郷、**

・・・・・・1762＝66歳：さらに、城下での徒弟教育も許可されると、**仙台はじめ藩内各地を回って指導に努め、**

・・・・・・1763＝67歳：建部清庵や一閑藩主に会う。藩主重村とも交流。

忠臣蔵大当り1766＝70歳：江戸に出て、学友らと相談し、**藩に「朱書校正」の願書を提出するも、退けられるが、**

久留米藩工事1768＝72歳：

・・・・・・1769＝73歳：娘サクが死去。

以後、藩内を回り続けながら、**毎年のように、江戸に出て、願書を提出し続け、**

田沼意次老中1772＝76歳：

雨月物語刊・1776＝80歳：**没した。**

著書にはほかに「医家千字文」「東山実記」「玩易斎筆記」(6巻)などがある。各上言は、のちに「蘆東山上書」として、政治経済に関する鋭い批判と見識をもって名高く、明治に入って「無刑録」が刊行され、刑政学者として世界的に評価されるようになった。

「人づくり風土記(岩手)」、インターネット、